

大野の水環境ネットワーク

令和6年3月26日 大野市水循環推進協議会

大野の水を蘇生させる6つの法則

1. 大野市民は、身近な水資源として、さらに地下水に大きな関心をもつこと。

- 地下水を身近な水源として実感すること
- 水の一生(水循環・水収支)を科学的に調べること。
- 地下水位・水質変化記録の公示の工夫。
- 情報公開の原則を再確認すること。“地下水サミット”の開催。

2. 節水にまさる対策はないことを自覚すること。

- 節水対策の強化と節水思想の徹底。
- 各井戸への量推計の設置と量の報告の義務
- 水のサイクル化の徹底

3. 地下水を汚さないこと。

- 水質変化のモニタリングの必要性
- 大野に適した下水処理システムの開発
- 屎尿処理・下水処理施設にもっと市民の理解を。

4. 地下水の飲み水・生活用水優先利用を再確認。

5. 地下水をタダで利用できるとは思わないこと。

- 現在の井戸は今後とも持続的に利用できるか。
- 地下水総合管理の必要性。
- 大野に適した上下水道計画を考えること。

6. 子孫のために新しい地下水源を生み出すこと。

- 環境に優しい土木工事を計画する。
- 水環境の保全・強化を考えた土地改良基盤整備・河川改良工事をすすめる。
- それ以上に、地下水強化(かん養)策を積極的に考える。
- そのための基礎調査・研究を実施すること。

大野の水環境ネットワークの活動

<第20回身近な水環境の全国一斉調査>

開催日 令和5年6月2日(日) AM8:00～ 毎年環境月間(6月)

調査河川と調査項目

河川名	調査地点	調査項目	
1, 真名川	6地点	・時間	・COD
2, 清滝川	10遅延	・気温	・川の様子
3, 木瓜川	8地点	・水温	川幅、水深
4, 赤根川	8地点	・透視度	水生生物
5, 善道寺川	9地点	・PH	水生植物等
*今回は水利者の許可を得、用水路の水質を調べる(清滝川一カ所)			

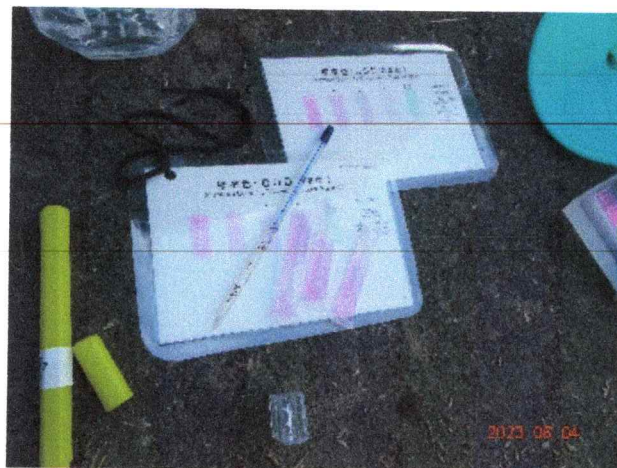
調査結果

・各調査項目においては、特段例年と大きな変化はなかった。

・調査日の一昨日にかなりの降雨量があり、水量は比較的多く感じた。

・赤根川上流では、水面が見えないほどの植物の繁茂。昨年よりずいぶん増えていることを確認する。

・降雨のせいもあり、濁度も見られたが時間と共に沈殿するので、大きな問題はないと考える。



AM8:52 上赤根橋より撮影

<大野市生涯学習フォーラム ポスター展示>

開催日 令和6年2月18日(日) AM8:00～ 毎年環境月間(6月)
会場 学びの里「めいりん」講堂
展示物 別紙

*

<地下水位の変動について>

市内31カ所、34観測井で地下水位を観察している(大野市)

*別紙 グラフ 地下水の変動 一定の法則があるとかんがえられる

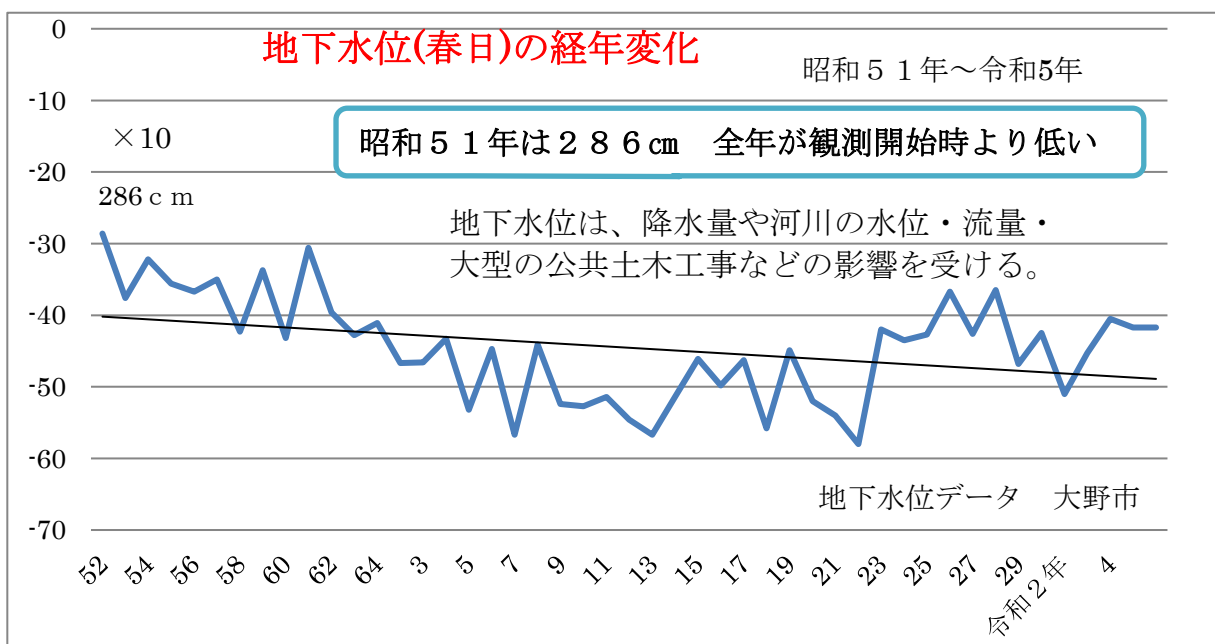
大野の水環境ネットワーク

見つめよう大野の水環境

市民と行政が実態を知り 水循環基本法を活かし 責務を果たす

能登半島地震から 新年早々。16時10分頃、能登半島を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生。石川県志賀町で最大震度7。日本中が震撼した。テレビや新聞は刻々と被災の状況を伝え、地震に津波・道路の地割れ・火事の様子が映され、大津波警報が出され日常が一瞬にして一変しました。上水道・下水道は地震に弱く全地域が断水し困窮している状況。消火では川の水が少なく間に合わず、消火栓も地震で壊れ使えないなど問題が浮き彫りにされた。この問題は他人ごとではありません。全地域が地震で破壊され11万戸が断水し、241の自治体から給水車が駆けつけたが、広範囲に対応は出来ず、物資も人手も欠乏し、医療面の惨状はこの上なく、尊い命が失われ涙にくれる現地の様子。災害時は特に湧き水や井戸は有用で貴重な水源です。

大野市の自然の要因& 人為的に損なわれた環境 水を取り巻く要因は、雨も雪も全国的にも多く世界でも多いが、戦後、環境に配慮しない施策で人為的に水の循環が損なわれてしまったことは否めない。行き過ぎた開発や取水で、川を軸にした水の循環は健全性を欠き、景観や生物の多様性にも大きく影響を及ぼしている。多くのダムが創られ、水力に根こそぎ取られ水なし川になり、生活様式の変化、道路舗装や水路の三面張りでも雨の地下浸透は阻害され続けた。今冬も、「大野市地下水保全条例」で地下水による融雪は禁止していても守られていない。地下水位は変動しながら下降し、かつてあった豊かな流れや景観がなくなって久しい。水循環基本法が施行され10年。災害時においても豊富で水質的にも優れた地下水利用の町の重要性は、貴重な存在である。「水のまち大野」として水問題の歴史や現状を理解し流域を視野に入れ、大野市民全員の「共有財産」である地下水を守っていこうではありませんか。



注 上の下線は1月27日の石川県知事の記者会見の言葉 大野の水環境ネットワーク 文責 寺脇

みんなで守ろう 大野の地下水

市民と行政が実態を知り 水循環基本法を活かし 責務を果たす

大野の水環境ネットワーク

恵まれた大野の水環境



令和3年11月17日 御清水
地下水位：1m87cm 全く水がない



令和3年10月31日 木瓜川

大野の水を取り巻く自然の要因は、気候的にも地形や地質的にも恵まれている。雨も雪も多く、降水量の平年値は大野2,290.5mm、九頭竜2,701.9mm。積雪の最深の平年は大野83cm、九頭竜157cmです。地球温暖化とはいえ、大野市は冬季、気温も低く冬の雪対策は、地下水保全対策とともに大きな課題である。

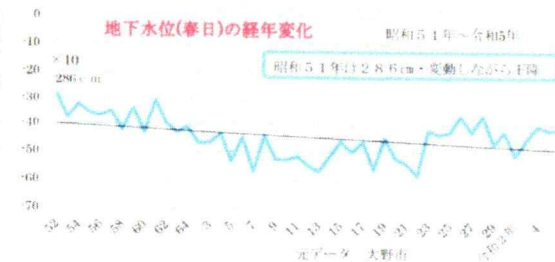
私の子どもの頃は、水は手押ポンプ、風呂の水張りは子どもの仕事。それだけに水を得るのは貴重で大切に使うという習慣があった。しかし昭和30年代から、モータで水が容易に得られるようになると、使用量も多くなり、生活様式も一変する。水に恵まれ生活用水はじめ酒や醤油・酢・味噌等の醸造業や織物工場・電子工場などの事業所も大きな恩恵を受けてきた。

昭和50年代頃には融雪装置が普及し、冬には地下水による融雪が広がり地下水位は低下、井戸枯れも多発し、井戸を掘直す家庭も増える。「大野市地下水保全条例」では地下水による融雪は禁止されているが、遵守されていない。湧水枯渇・地下水位の低下は、生活様式の変化、行き過ぎた開発や取水で、川を軸にした水の循環は健全性を欠き、景観や生物の多様性にも大きく影響を及ぼしている。

水循環基本法が施行され10年。災害時においても地下水の重要性が欠かせない今、地下水を生活用水とする全国でもまれに見る「水のまち大野」として、水問題の歴史や現状を理解し流域を視野に入れ、大野市民全員の『共有財産』である地下水を守っていかなくてはなりません。

しかし地下水位は低下

大野市の地下水位は、観測を始めた昭和51年から変動しながら下降。一昨年は、真名川五条方の農業用水改修工事のため断水し、清滝川・木瓜川は濁水し、川底は干割れし多くの魚も死に、地下水位は低下し、井戸枯れが広い範囲で発生。この年に水位は観測開始以来の最低の極値を更新しました。市は地下水警報を発令し、給水所を設置。御清水に汲みに行ったり、近隣でもらい水をしたりしてしのいだ家庭もあり、水の出方が細くなった。土色の水が出てきた、という家庭もあった。私たちが日々利用している地下水は、雨、雪、川の水とも深く関係していることがわかる。



能登半島地震

水の大切さを痛感
—水は公有の財産—



令和6年1月16日 七尾市

団体の連絡先など

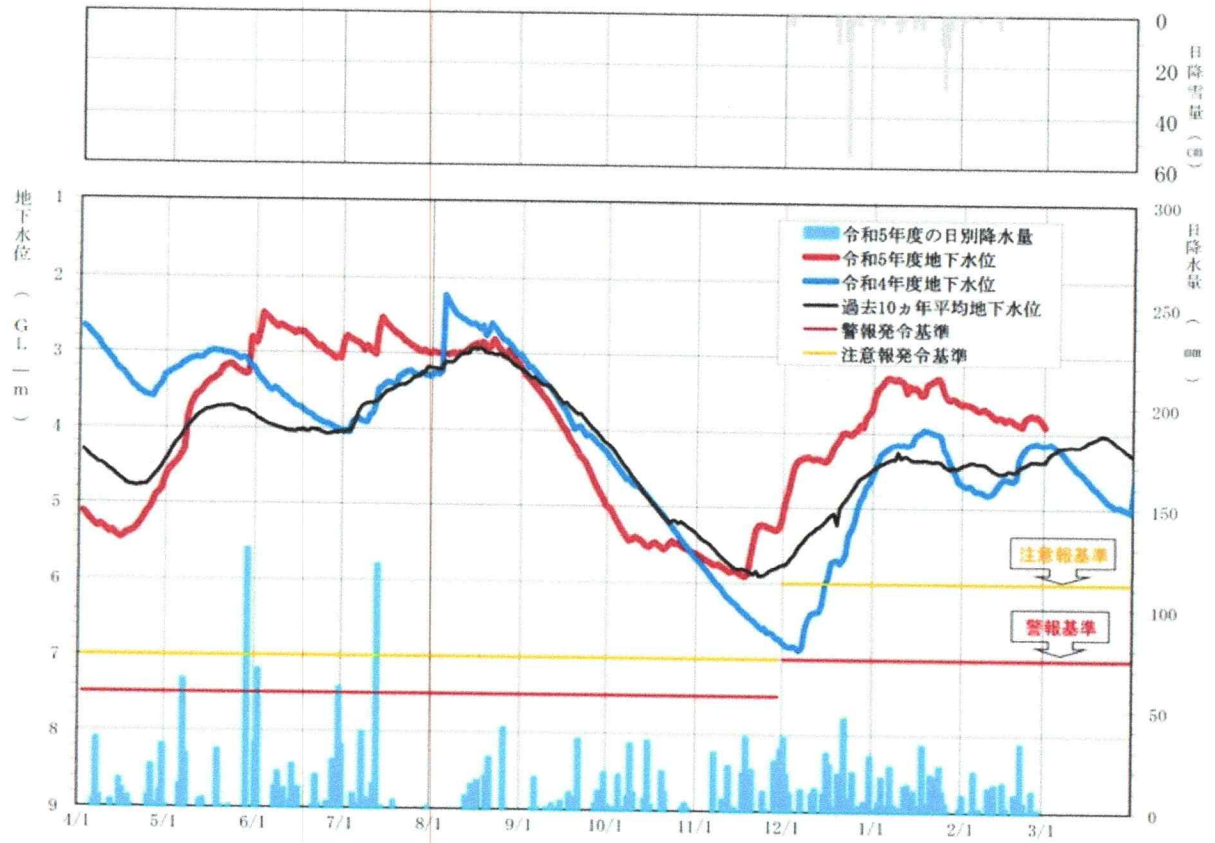
大野の水環境ネットワーク

代表 石田俊夫 大野市明倫町9-10 090-6270-2094

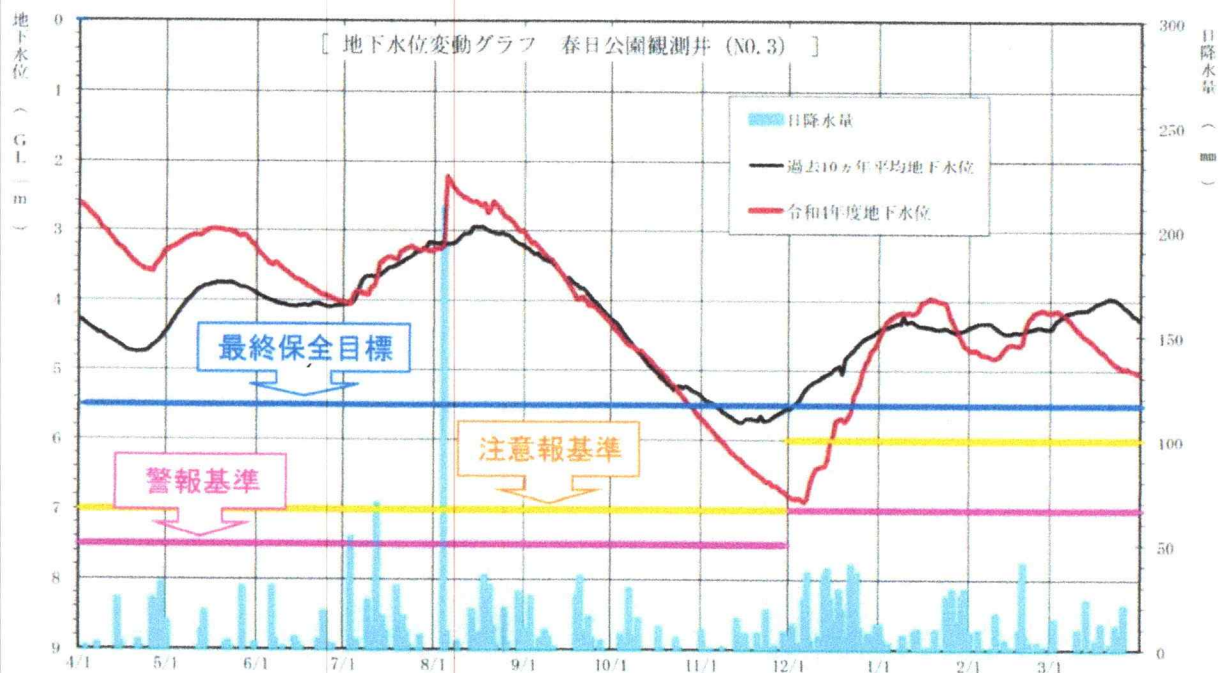
地下水位の変動について

市市内 31 か所、34 観測井で地下水位を観測している。

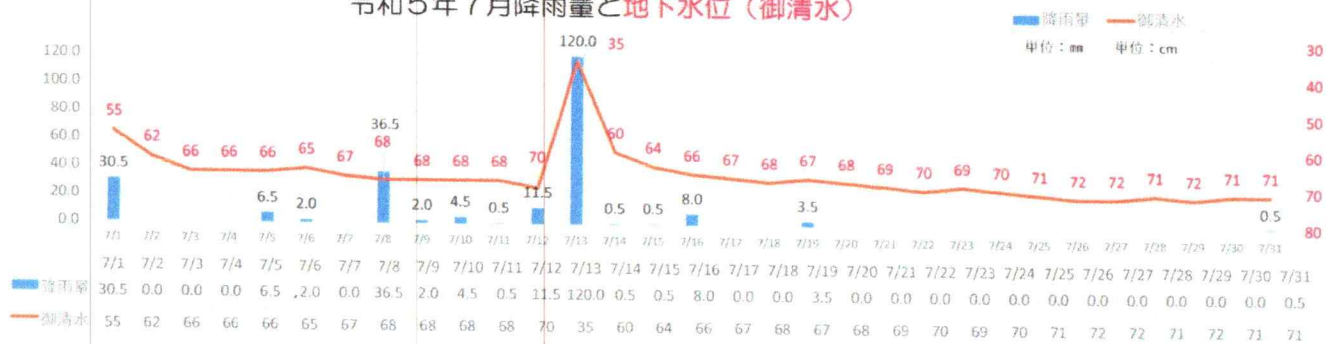
令和5年度 春日公園観測井地下水位変動グラフ



令和4年度春日公園観測井地下水位変動グラフ

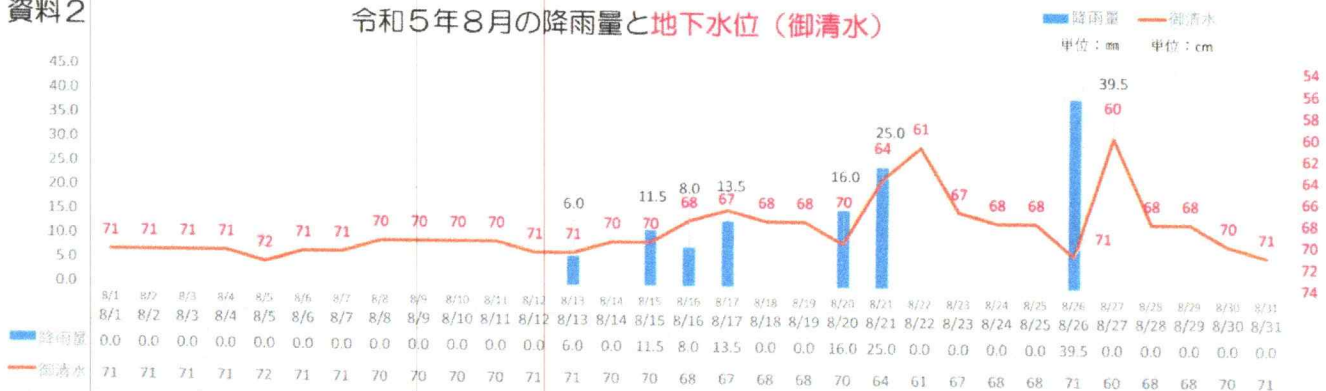


令和5年7月降雨量と地下水位（御清水）



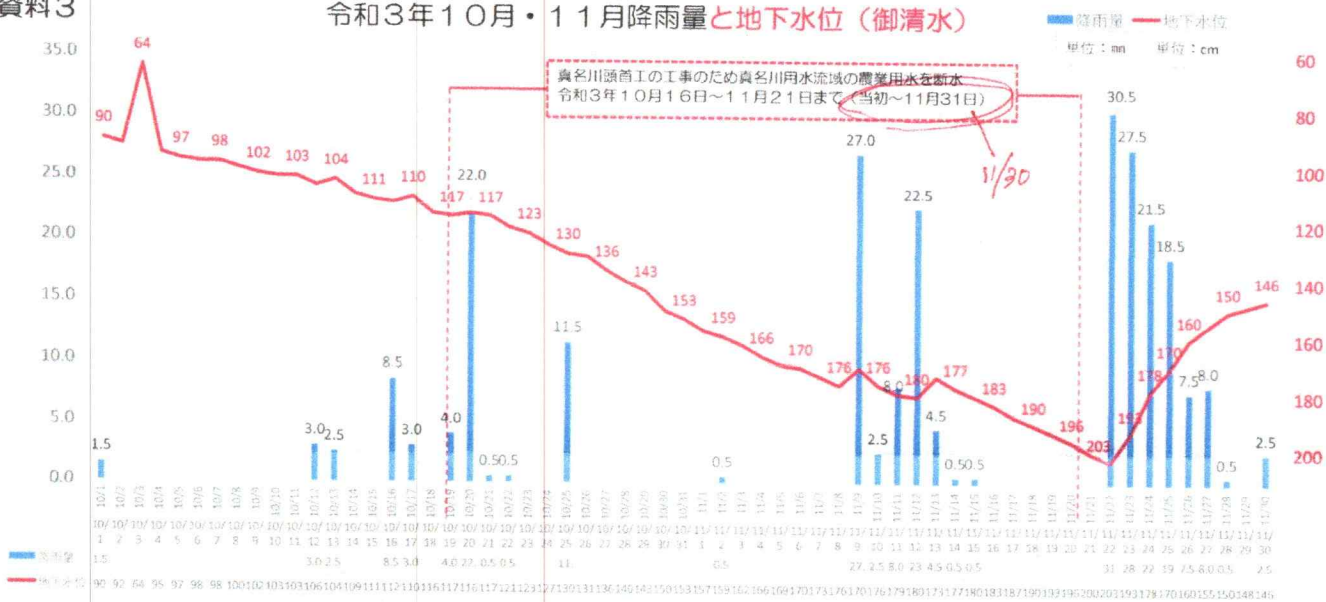
資料2

令和5年8月の降雨量と地下水位（御清水）



資料3

令和3年10月・11月降雨量と地下水位（御清水）



* 五条方頭首工工事のため、断水期間

工期 平成30年10月16日～11月30日まで 46日間
 令和元年10月16日～11月28日まで 44日間
 令和3年10月19日～11月30日まで 43日間
 緊急対応で22日農業用水取水再開

地下水の水位の目標数値（大野市水循環基本計画）
 御清水の観測井 年間を通して1.2m未満

出典：気象庁HP、大野市HP

作成：楳林 厚子